

サクラソウ関係図書紹介 (3)

那須の植物誌

生物学御研究所編

保育社 昭和47年 B5版 395ページ B5版 上製本

昭和天皇は、毎年夏を栃木県的那須御用邸で過ごされていたが、その期間に那須地方の植物の調査を続けられ、その成果として昭和37年に「那須の植物」が刊行された。調査は、その後も続けられ、その範囲も広げられたが、そうした成果を踏まえて本書が刊行された。巻頭に美しい原色写真184葉が収められており、その中に那須町小深堀のサクラソウが掲載されている。本文では、サクラソウ科11種(うち変種1)が掲げられており、サクラソウ属では、サクラソウ (*Primula japonica*)、ユキワリソウ (*P. modesta*)、サクラソウ (*P. sieboldii*) の3種がみられる。サクラソウは、産地として、桜沢、小深堀、長南寺、北条、茶臼(黒田原付近)の地名をあげている。小深堀のサクラソウについて、「花冠裂片の狭いものから広いものまであって、変異に富んでいる。」と説明されている。

皇居の植物

生物学御研究所編

保育社 平成元年 B5版 652ページ B5版 上製本

昭和7年から平成元年までの間に、皇居、北の丸公園、皇居前広場で記録したシダ植物、種子植物で、野生種その他に栽培植物・帰化植物までが記録されている。巻頭の写真は232葉あり、その一つにサクラソウ (*Primula sieboldii*) がある。本文では、サクラソウ科2属7種が掲載されている。サクラソウ (*P. sieboldii*) は、吹上御苑(滝見の池畔)を産地とし、栽植品で群落になっているとしている。やや長い解説があり、田島ヶ原を含め、江戸近在のサクラソウのことについても説明されている。

一戸町のサクラソウ

岩手県二戸郡一戸町の馬淵川(まべちがわ)では、現在、国の農業水利事業として大志田ダムの建設計画が進行中です。このダム建設にはその上流地区に広い範囲の水没が伴います。そこで平成6年度と7年度に、水没予定地区の国有林野森林施策影響調査(環境アセスメント調査)が実施されました。調査を委託された一戸町文化財調査専門委員の小守一男氏は、その調査の際に、馬淵川上流の平糠川とその支流の宇別川の岸辺に約1200株のサクラソウが自生していることを確認しました。これを受けて、町と地元の自然保護グループ、そして水没予定地の地権者の皆さんが取った行動は、サクラソウの移植でした。移植先として町が用意した土地は、水没予定地

のさらに上流の沢沿いにあり、面積は約400㎡あります。そこではサクラソウの育成に妨げとなるクマザサを刈り、水路や見学者用の歩道を整備するなど、周到な準備がされました。そして平成9年7月17・18日の両日、小守氏を中心とした地元の有志により、事業初年度分の数百株が無事移植されました。

その一戸町から、今後のサクラソウ保護、自生地管理を進めていく上での事例調査として、平成9年11月21日に小守氏を含めて3名の方が、田島ヶ原サクラソウ自生地の視察のために浦和市を訪れました。その際の印象が小守氏から寄せられましたので、以下でご紹介します。

(紙面の都合により一部抜粋してあります)

＊ 希望と夢のサクラソウ ＊

前略

この度は、浦和市を訪れ、磯田洋二氏や市教委の方にお会いしサクラソウ (*Primula sieboldii* E. Morren) という植物を通じ共通の話題として学ばせていただくことをこの上ない幸せに思います。

ご指導いただく前に手前のことを簡単に紹介して

おきますと、実は一戸町のサクラソウの場合は、馬淵川(まべちがわ)沿岸農業水利事業に伴い湛水する地域の植物調査によって、点々と1200株ほどのサクラソウが自生していることが確認されたものです。絶滅に瀕しているサクラソウを是非次世代へ残しておきたいという願いから、東北農政局当局と一

戸町と町民が一体となって保護に乗り出し、サクラソウの移植事業として取り掛かったもので、今年が初年度にあたります。

暗中模索のなか、昨年の予備試験的な移植結果を基に、今年はほぼ全株の本試験移植を実施して来春の結果を待っている段階です。途中経過の観察では95パーセントの新芽を確認できたものの、最終的にはどの程度活着するのか確固たる自信もなく不安がつきまとっているのが実状です。

浦和市の皆様に一戸町のサクラソウの写真をお見せしたら「可愛い」という感想を頂戴しました。川縁に群状ないしは斑状に生育し開花はせいぜい20%程度のもので、厳しい生育環境のほんのりとしたピンク色は余計に可愛い感じを与えるようです。

田島ケ原のサクラソウについては、文献・図書等で観念的ではありましたが、多少は理解しておりました。どうしても膚で感じ取りたいという思いに駆られ、サクラソウの姿が見られないこの時期に戸惑いながらも、耳に入り心に著く、こんな心境で伺った次第です。

磯田氏も市教委の方も、田島ケ原のサクラソウ保護について歴史的背景や生育状態・管理について、心のこもった口調で話してくださいました。

まず、植生管理については、生態系を維持することを基底に据え、ノウルシやオギとの共存を保ちながら、サクラソウの衰退を防ぐために侵入してくる植物の抜き取りや枯れたオギを除去するために野焼きをして生育環境を整えるなど、物理的に最小限度の手を加えるという方法で保護しておられるということでした。

また、サクラソウの結実にかかわる送粉者（ポリネーター）の問題解決には、科学的な調査・観察を実施したり、増殖には人工的な試験管栽培を試み完成させるなど、極めて解決策が研究的なことに驚かされました。

なによりなことは、「浦和市天然記念物調査会」を組織してサクラソウの成育状況や自生地の生態調査など総合的な調査を実施しておられることです。このような施策を講じてまで市の財産を守るということでしょう、サクラソウを貴重な文化遺産として子供たちの学習の場に提供していることでもうなすけませんが、サクラソウづくりは人づくりという理念をかいま見たような気がしています。



一戸町の自生種

サクラソウの開花期には、市民一般の方々への見学案内をしてサクラソウの理解と保護思想普及に力を注いでおられる。それでいて観光という言葉は一度も使わずに説明なされたことがとても印象的でした。

サクラソウ自生地でも、なかなか話題は尽きず気が付いたときはすでに夕暮れ時でした。オギに包まれた「国指定特別天然記念物—田島ケ原サクラソウ自生地」と刻まれた標柱に向かい、来春の田島ケ原がみことなサクラソウで彩られる光景を想像しながら、心の中で密かに来春を約束しさよならをしました。

1997. 12. 27

一戸町文化財調査専門委員
小守 一男



◀平成9年春の田島ケ原

さくらそう通信

平成10年3月31日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796

印刷 関東図書株式会社



題字 教育長 浅見 匡